



# 南アルプスユネスコエコパーク登録

地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指して



ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、ユネスコが開始した事業で、地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取り組みのことです。

ユネスコエコパークの正式名称は、生物圏保存地域と呼ばれ、世界117か国621地域、日本では群馬・長野県の「志賀高原」、石川・岐阜・富山・福井県の「白山」、奈良・三重県の「大台ヶ原・大峰山」、宮崎県の「綾」及び鹿児島県の「屋久島」の5地域が登録されていましたが、今回新たに、福島県の「只見」と山梨・長野・静岡県の「南アルプス」の2地域が登録されることとなりました。

南アルプスは、『自然と共生する持続社会の世界的モデル』を目指し、引き続き、世界自然遺産登録に向けての活動を推進することとしていきます。本市においては、これまでも官民協働による甘利山クリーン作戦や自然の魅力を感じていただくためのエコトレッキングを実施するなど、南アルプスを核とした周辺地域の保全と活用に取り組んできましたが、南アルプスがある地域の自然と文化を守りながら、さらなる地域社会の発展を目指す取り組みを進めていくことが重要となります。

この貴重な財産を未来に受け継ぐために、引き続き、地域に暮らす皆様のご理解とご協力をお願いします。



# 緑の山岳地帯「南アルプス」



## 地形・地質

南アルプスは赤石山脈と呼ばれ、山梨・長野・静岡の3県にまたがる、日本を代表する大きな山岳地帯です。諏訪湖を頂点に、東側を富士川、西側を天竜川に挟まれた東西約50キロ、南北100キロ以上にわたる山地で、その中央部には赤石山系、白根山系、北東端の甲斐駒ヶ岳、鳳凰山系からなり、その前衛には伊那山地と巨摩山地が形成されています。北岳や赤石岳をはじめ、南アルプスには3000m級の山々が11座あり、そのうちの10山が日本百名山に選定されています。

赤石山系は7000万年前に本州弧に沿う海溝に堆積した砂や泥の堆積物と、南太平洋からプレートに乗って運ばれてきた、1億3000万から1億年前の玄武岩やチャート、石灰岩などが混在する地層からなり、北端の甲斐駒ヶ岳や鳳凰山系は、1500万年前に地下深部でマグマが個



鳳凰三山 (ほうおうさんざん)

北から地蔵ヶ岳 (2764m) 観音ヶ岳 (2840.4m) 薬師ヶ岳 (2764m) の三山を総称して鳳凰三山と呼ばれています。これらは、甲斐駒ヶ岳と同様に花崗岩から構成され、地蔵ヶ岳山頂の尖塔状のオベリスクに代表される岩塔や砂礫斜面などの独特な地形、岩山を形成しています。

また、薬師ヶ岳周辺などには、風化した花崗岩のマサ〜砂礫中の水が凍って持ち上げられ、氷が融けると移動することを繰り返すことにより、地表面に条線や多角形、網状などの様々な模様を形成する構造土が見られます。



## 自然

結した花崗岩類から形成されています。その時代に日本列島のもとが大陸から離れて移動し、大陸との間に日本海ができました。

南アルプスの隆起は100万年ほど前に、本州弧に伊豆小笠原弧が衝突したことに始まり、現在でも年間約4ミリ以上の速さで隆起し続けています。この速度は世界でもトップクラスで、先日、国土地理院が公表した標高値の改定でも、観音ヶ岳や間ノ岳の標高が1m高くなり、富士山、北岳、間ノ岳の山梨の3峰が全国トップ3を独占したというニュースもありました。

南アルプスは国内でも屈指の多雨多湿地帯で、標高の低いところから3000mの高山帯にかけて、顕著な森林の垂直分布が見られ、山稜部には準平原や氷河地形 (カール地形) も数多く残されています。こうした特性からキタダケソウやライチョウなどの固有種や南限種が多く生息する生物多様性に富んだ自然環境を有しています。

花の名所として第一に挙げられるのは、北岳とその周辺で、代表的なお花畑としては、北岳南東斜面、草すべりから小太郎尾根、熊ノ平周辺、馬の背などがあり、この他にも

キタダケソウ (固有種)



ライチョウ (世界南限種)



中白根の東斜面、八本歯のコルにお花畑が広がります。北岳には固有種が多く、キタダケソウ、キタダケキンポウゲ、キタダケトリカブトなど、キタダケの名を冠した植物が多数あります。中でもキタダケソウは世界で一属一種、ここにしか見られない貴重な品種です。

6月下旬、北岳の稜線

線でキタダケソウが咲き始め、花のシーズンが始まりますが、高山植物を見るには、7月初旬から下旬にかけてがベストシーズンです。また、3000m級の山々では、2700m付近まで原生林に覆われ、2600mまでの亜高山

帯は、カラマツ、コメツガ、シラビンなどの針葉樹林が中心です。

森林限界手前にはダケカンバが多く、9月下旬からの紅葉シーズンには鮮やかに色づいて、美しい風景を見せてくれます。

南アルプスは植生が豊富で多様な動物も生息します。高山には特別天然記念物のカモシカやライチョウが棲み、鳥獣保護区も広大な面積を占めています。

ライチョウの生育には広々としたハイマツ帯と多様な高山植物の植生環境が必要です。しかし、白根三山などでは、現在、ライチョウの個体数の減少が危惧されています。



# ユネスコエコパーク申請名称：南アルプス生物圏保存地域

## テーマ：高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性

### ユネスコエコパーク3つの機能



生物多様性の保全、自然と調和した持続可能な地域発展、科学的な調査や教育の支援など、相互に強化する関係を築き、さらにこの機能を果たすための3つの地域を指定する必要があります。

①生物多様性の保全、経済と社会の発展、学術的支援の3

ます。

具体的には、

生物多様性の保全、経済と社会の発展及び学術的支援の3つの機能を持ち、自然環境の保全と人間の営みが持続的に共存している地域を指定することにより、地域の取り組みと科学的な知見に基づいて人間と自然との共生に関するモデルを提示するなど、生物圏保存地域としての目的を明確にすることが求められています。

### ユネスコから求められていること

自然を守りながら、地域社会の発展を目指すために

### ユネスコエコパーク3つの地域

ユネスコエコパークの3つの機能を相互に強化する関係を築き、さらにこの機能を果たすための3つの地域を設定する必要があります。それぞれ役割の異なつた3つの地域は、以下のイラスト図のとおりです。

- ①自然環境の保全と人間の営みが、持続的に共存している3つの地域を指定すること。
  - ②自然環境の保全と人間の営みが、持続的に共存している3つの地域を指定すること。
  - ③保全管理計画があること。
  - ④保全管理する地域の組織体制があること。
  - ⑤世界ネットワークへの参画の意思があること。
- などが挙げられています。

#### 核心地域

国立公園の特別保護地区など、自然環境を守らなければならないいちばん大切な地域。

核心地域とは、南アルプスを代表する 3000m 級の山々や原生的な自然環境、キタダケソウやライチョウなど、貴重な動植物の生息地を有し、国立公園の中でも最も規制が厳しい地域で、かつ、法的にも厳しく保護がされ、絶対に守らなければならない地域のことです。

#### 緩衝地域

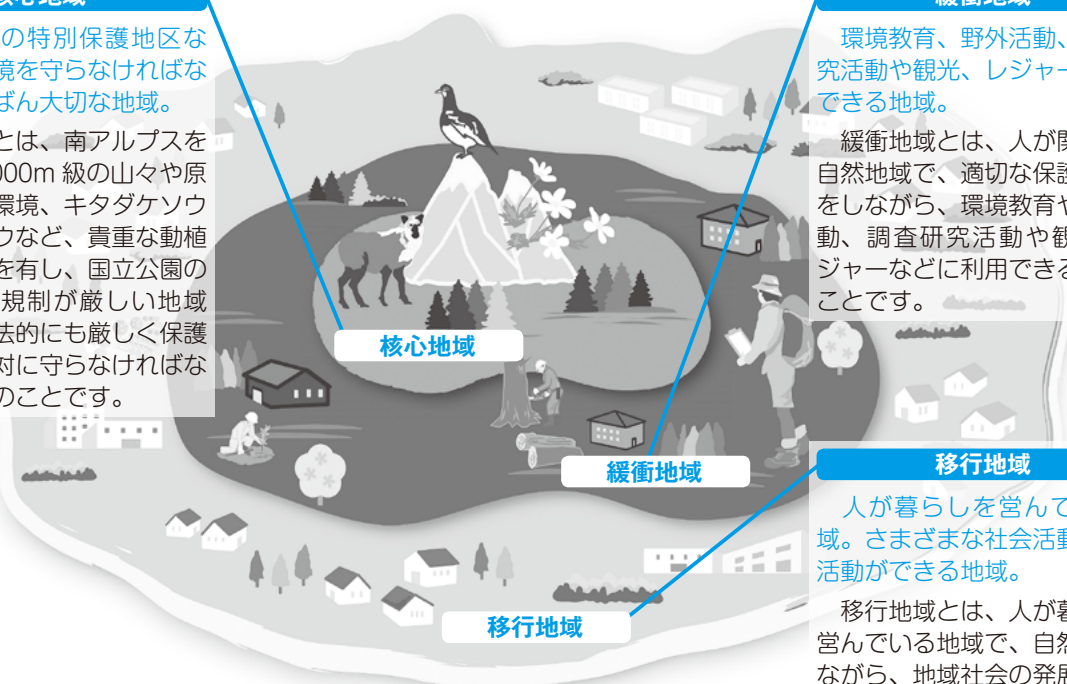
環境教育、野外活動、調査研究活動や観光、レジャーに利用できる地域。

緩衝地域とは、人が関与する自然地域で、適切な保護や管理をしながら、環境教育や野外活動、調査研究活動や観光、レジャーなどに利用できる地域のことです。

#### 移行地域

人が暮らしを営んでいる地域。さまざまな社会活動や企業活動ができる地域。

移行地域とは、人が暮らしを営んでいる地域で、自然を守りながら、地域社会の発展を目指す地域のことです。





## 南アルプスユネスコエコパークゾーニング図



構成市町村：韮崎市・南アルプス市・北杜市・早川町（山梨県）／飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村（長野県）／静岡市・川根本町（静岡県）

南アルプスは山梨・長野・静岡の3県にまたがる山脈の肝要です。

核心地域、緩衝地域、移行地域が果たす、守る・つながる・活かすという役割を機能させながら、自然と人間のいい関係を持続していく仕組みづくりを構築していくことが肝要です。

まずは、南アルプスの山をテーマに、自然を保全しながらまちづくりを考えるといった、人と自然のより良い関係を構築しなければなりません。

## 人と自然のより良い関係

ユネスコエコパークでやらなければならないこと

で、総面積は302,474haを有し、構成市町村は3県で10市町村に及びます。この構成市町村では、南ア



ルプスが有する顕著で普遍的な価値を見直すべく、南アルプスの世界自然遺産登録を目指した連絡協議会を平成19年2月に設立し、シンポジウムやセミナー、学習会の開催など、これまでも世界遺産登録に向けた様々な取り組みを行ってきました。

ユネスコエコパークの申請に伴い、昨年8月には構成10市町村の間で、南アルプスの自然環境の保全、南アルプス山麓の地域間交流の拡大による地域活性化などを柱とする基本合意の締結を行い、従来、南アルプスの山々によって、交流が阻まれてきた3県10市町村が、「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念の下、結束して魅力ある地域づくりを図ることを目指すことにしました。

南アルプスの山々を共有の財産としてとらえ、構成10市町村が山でつながり、それぞれの地域社会における生活や文化が、相互に発展・向上するモデル地域を構築していくため、今回のユネスコエコパークの登録を契機に、今後とも一体的な取り組みを実施していきます。

## 登録がスタートです ユネスコエコパーク登録後は……

まずは、ユネスコエコパークとして、南アルプスを世界に発信することが可能となりました。地域の魅力を世界に発信することで、国内外からの登山客、観光客の増加が期待されます。

次に、南アルプスの山々が、構成10市町村の共有財産として位置づけられ、自然の恩恵を活かしながら、共同で互いの地域を理解する取り組みに発展します。また、南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりが行われ、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。

さらには、国際的な評価が

確実に上がり、エコパークの理念に従って作った作物や南アルプスの名を冠した農作物は、国際的な市場に出せる価値が生まれ、経済的な繁栄に繋がるようになります。これは日本国内では実感が薄いようですが、国際的な捉え方のようです。いずれも新しい規制や法律の制定は必要がなく、既存の法律等で管理されます。

身近なところでは、住民の地域への誇りが高まり、すでに登録がされている綾町では、ふるさと納税の寄附者と寄附金額が急増しているとの報告もあります。

南アルプスには様々な資産があります。新府桃源郷や甘利山、わに塚のサクラ、武田家ゆかりの史跡、地蔵ヶ岳の山岳信仰や綾棒おどりなどの伝統芸能も広い意味での資産といえます。この貴重な財産を未来に受け継ぐために、また、南アルプスの世界自然遺産登録を目指して、皆様のご協力をお願いします。



ユネスコエコパークに関する問い合わせは  
商工観光課観光担当  
(内線213・214)